

第3回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

■ 日 時 平成 28 年 8 月 19 日（金）14:00～16:00

■ 場 所 福岡市水道局 別館 2 階 大会議室

■ 出 席 者 〔委員〕
池山委員，加留部委員，小出委員，広城委員（座長），藤田委員，
前田委員
（欠席：宇野委員）

■ 傍 聴 者 2 名

■ 議事次第

- 1 開会
- 2 議事
（1）新たな福岡市水道長期ビジョンの素案について
- 3 閉会

＜配布資料＞

- ・新たな福岡市水道長期ビジョン（素案）の概要
- ・計画期間中の取組みマップ

第3回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
	1 開会 2 議事 (1) 新たな福岡市水道長期ビジョンの素案について
事務局	＜資料を事務局から説明＞
委員	概要版の2ページに、国が新水道ビジョンで示した「安全」、「強靱」、「持続」の水道の理想像を踏まえ、福岡市水道事業が目指すべき方向性としてこれら3つの観点から方向性が示されている。このうち、「強靱」については、福岡市水道事業が目指すべき方向性の説明の中に、このキーワードが書かれていないのはなぜか。
福岡市	目指すべき方向性の説明「災害時においても水を安定供給できる水道」においては、強靱であるからこそ安定供給できると考えており、安定供給の中に「強靱」の意味も込めて整理したものである。
委員	「災害時においても水を安定供給できる水道」について、この目指すべき方向性を実現するための主要事業には自然災害だけでなく、事故・テロ等対策も含まれるので、「災害時においても」を「非常時においても」と表現したほうが事業を包括した表現になると思われる。
福岡市	目指すべき方向性の説明文については、委員からの意見も踏まえながら、再検討していく。
委員	3つの目指すべき方向性と4つの施策目標の関連を示す図において、施策目標1「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」が施策目標3「危機管理対策の推進」と同じ「強靱」に位置づけられている。「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」を「強靱」から切り離し、3つの目指すべき方向性の全てに関連する施策目標であると整理した上で、残る3つの施策目標については「安全」、「強靱」、「持続」のそれぞれに振り分けられることができれば、施策目標と目指すべき方向性の関連を示す図が見やすくなり、施策体系の施策目標の並びにも合ってくると思われる。
福岡市	目指すべき方向性の「強靱」で示す「災害時においても水を安定供給できる水道」には、平常時における水の安定供給として「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」と、非常時における水の安定供給として「危機管理対策の推進」の2つの施策目標を位置づけている。この2つの施策目標のうち、「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」については、水道施設の維持・更新など水の安定供給に欠かせない基礎的な事業を指すため、「強靱」の中でも上位に掲げている。

第3回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
委員	概要版の3ページに記載のある、「五ヶ山ダム建設事業」については、事業費や投資する期間を新たなビジョンでどのように示すのか。
福岡市	五ヶ山ダムは平成29年度に完成するため、建設事業費としての投資期間は平成29年度までとなり、その後は、維持管理経費を計上していくこととなる。新たなビジョンにおいて、建設事業費は「資本的収支の見通し」の資本的支出の一要素として示し、維持管理費は「収益的収支の見通し」の収益的支出の一要素として示していくことになる。
委員	新たなビジョンの素案では、事業に対する個々の事業費が記載されていない。事業計画としてビジョンを示すのであれば、事業内容と事業費をリンクさせた、いわゆる財政収支計画的な要素も含まれるべきものとする。今後、新たなビジョンの策定にあたっては、事業内容と併せて、事業費についても記載していくべきではないか。
座長	素案の段階で、事業ごとの事業費を記載していくのは難しいと思うが、事務局としてどのように考えているのか。
福岡市	ビジョンは水道事業の基本計画として、今後の重要な施策やその方向性を示していくものである。策定にあたっては、当然、財政面からの検証も必要であり、各事業の概算積み上げにより期間中の支出や財源をトータル的に試算し、経営の見通しを立てていくが、財政収支計画とは異なるものである。 委員から質問のあった事業ごとの事業費については、ビジョンの実施計画として別途作成する中期経営計画の中で記載していくこととしている。この中期経営計画は4年ごとに策定し、ビジョンで示した方向性に基づき、4年間に取り組むべき事業の計画及び財政収支計画を示していくものであり、この中で各事業の事業費についても、具体的な事業内容と併せて記載していく。
委員	福岡市内には、マンションなどの集合住宅が多く見られる。新たなビジョンでは直結給水の普及促進を主要事業として掲げているが、現在のところどのように進捗しているのか。また、集合住宅などの高架水槽の中には、適正な管理がなされていないものがあると思われるが、貯水槽の衛生面の改善に向けて、今後、どのように取り組んでいくのか。
福岡市	直結給水の普及促進の進捗については、新築の共同住宅においては、現在9割以上で直結給水が採用されており、直結給水の普及が図られている状況にある。次に、貯水槽の適正管理であるが、水道法で清掃等の義務付けが規定されていない有効容量10m ³ 以下の小規模貯水槽について、管理実態の調査を行っており、これまでの調査の結果、約4分の1の施設で清掃未実施や残留塩素が検出されないなどの管理不備が確認されている。今後、管理不備施設に対しては、改善状況の確認や再指導等のフォローアップ調査を新たに実施していくこと

第3回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
委員	とにしており、取組みにあたっては、新たなビジョンの中に成果指標として目標値を定め、進捗を管理しながら取り組んでいくこととしている。 概要版4ページ目の「福岡市独自の水質目標による水質管理」について、水道水のおいしさは個人の感覚で決まってくると思うが、福岡市が国の基準よりも厳しい目標値に設定した独自の水質目標は、全国と比較した場合でも高いレベルであると言えるのか。
福岡市	独自の水質目標のうち、残留塩素については、厚生労働省が過去に「おいしい水研究会」で示したおいしい水の目安である0.4mg/L以下を目安として、その±0.1 mg/Lの範囲で水質目標を設定した。次に、カビ臭物質については、臭いに敏感な人は国の基準値付近でもカビ臭を感じることもあるため、国の基準の半分以上に水質目標を設定した。その他の味や安全性に係る項目についても、同じ考え方で国の基準の半分以上に設定し、良質な水道水づくりに努めている。なお、他の水道事業体で独自に設定している水質目標との比較については、一概には言えないが、他の水道事業体と比較しても負けないくらいの水質目標設定であると考えている。
委員	「直結給水の普及促進」の説明の中に、「安全でフレッシュな水」との表現があるが、「フレッシュな水」であるかどうかは、これらの水質目標と関連しているのか。
福岡市	水道水の水質は、時間とともに、残留塩素が低下し、トリハロメタンが上昇するなど変化する。じゃ口においても浄水場で作った水の状態をできるだけ保ってお届けしたいということから、「フレッシュな水」という表現を使っている。
委員	4つの施策目標のうち、「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」は、福岡市の目指す都市像に近い印象を受けており、安全で良質な水の安定供給に向けた3つの目指すべき方向性とレベルが異なると思う。また、施策目標1の主な施策の並びは、「水道施設の維持・更新」、「水の有効利用」、「水資源の開発」の順になっているが、水の流れに合うように、「水資源の開発」を先頭にし、「水道施設の維持・更新」、「水の有効利用」へ続けたほうがいいのではないかと思われる。 また、概要版7ページ目からの「主な事業スケジュール」について、スケジュールの矢印が計画期間中にわたり横一線に続いており、スケジュールにメリハリがなく、事業の実施によりどのように水道の維持や向上が図られるのか分かり難い。これは、水道事業が開発から維持・更新の時代へと変化している中で、水道施設の維持・更新などの継続事業が多くなっており、計画期間中に事業が完了を迎える建設事業が少ないことから致し方ない部分もあると思う。そこで、事業の目標や成果などを、スケジュールと併せて記載していくことで、

第3回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
福岡市	継続事業においても事業の効果として水道事業がどう改善や維持されるのかを市民に分かりやすく示すことができるのではないかな。 施策目標「水の安定供給と節水型都市づくりの推進」と目指すべき方向性の関係性の整理、施策目標1の主な施策の並びについては、事務局で再度検討していきたい。また、「主な事業スケジュール」については、事業の成果を示すために成果指標として設定している目標値や現状値といった数値をスケジュール上に示し、計画期間中に水道がどのように変わるのかを市民に伝えられるよう、見せ方を工夫していきたい。
委員	12年間の計画期間の中で、水道事業がどのように変わるのかをスケジュールとして見せることで、事業への投資の必要性も市民に理解してもらえるようになると思われる。
座長	スケジュールの見せ方について、委員からの意見も踏まえ、事務局で検討していくよう願います。
委員	概要版3ページ目の浄水場再編事業に係る「施設機能の見直し」において、再編後の施設能力等の合計が612,450m³/日と記載されているが、福岡市の一日最大給水量と比較するとどういった割合になるのか。
福岡市	再編後の施設能力等の合計に対し、1日最大給水量は8割程度の52万m³/日を想定している。1日最大給水量より多くしているのは、メンテナンスで浄水場がフル稼働できないこともあり、そのための予備力も加味してのものである。
委員	飲料水として、ミネラルウォーターや家庭用宅配水を購入している方が周りに多くいる。福岡市の水道水は決して水質が悪いとは思えず、水道局が水道水の安全性を積極的にPRすることで、水道水の利用が増え、水道料金の増収にもつながるのではないかな。また、貯水槽の管理不備により、せっかくの安全でおいしい水道水がじゃ口まで届かない状態が生じないように、貯水槽の適正管理についても、積極的に取り組むことが必要ではないかな。
委員	自分の周りにも、水道水のカルキが体に悪いという先入観から、水道水を利用することに抵抗感を持っている方がいる。このような誤解を解くためにも、PRを充実していくべきではないかな。
福岡市	水道水のPRイベントなどでは、水道水の安全性の説明に加え、水道水のおいしい飲み方を紹介するなど、水道水の「安全」や「おいしさ」の広報にも努めているが、なかなか市民に広く浸透していないと感じている。

第3回 新福岡市水道長期ビジョン懇話会 議事要旨

発言者	発言要旨
委員	水道水のPRにおいては、テレビなどのメディアを通じて水道水の良さを取り上げてもらえたら、市民に水道水の良いイメージが伝わり、効果的なPRになるのではないか。
委員	水道水の良さを効果的にPRするためには、水道利用者に福岡市水道水の良質であるとのイメージを与えていくことが重要。イメージ作りの方法として、科学的に裏打ちされた水道水の質の良さを一言で表せるキャッチフレーズがあれば効果的であると思われる。また、その他の方法として、水道水を福岡の名物であるもつ鍋などの料理に結び付けながら、「福岡の料理がおいしいのは水道水がおいしいから」といったPRを行うなど、新たなイメージ戦略も有効ではないか。
委員	水道水は安全性と安価であるという点において、ミネラルウォーターなど他の飲料水より優れている。安全性や水道水の費用対効果といった、水道水の優れた点のPRも足りていないのではないか。
座長	水道利用者の水道水に対するマイナスイメージを変えていくことは難しいと思うが、委員の意見を踏まえながら、水道水のイメージ戦略も含め、効果的なPRについて今後検討してもらいたい。
座長	他に意見が無いようなので、本日の議事は終了する。委員からの意見を踏まえて、新たなビジョンがさらにブラッシュアップされることを期待する。最後に、次回の懇話会の開催について、事務局から委員へ説明をお願いしたい。
福岡市	本日、委員のみなさまから頂いたご意見も踏まえながら、ビジョンをブラッシュアップしていきたい。今後、市議会への説明を経て、10月から11月にかけてパブリック・コメントを実施し、広く市民の意見を聴取していく予定である。次回の懇話会では、パブリック・コメントの結果のご報告と、パブリック・コメントを受けて修正したビジョンの最終案をお示しすることになっている。なお、次回の開催時期については、座長、委員各位と相談しながら、日程調整させていただきたい。 3 閉会